

# どさん子ラウンド報告書

【令和3年9月18日（土） Web開催】



令和3年度北海道・東北ネットワーク研究会「どさん子ラウンド」がWeb形式で開催されました。既に秋の空気の北海道札幌市から配信し、南は沖縄までの全国各地からの25名の参加者とともに、北海道はもとより、日本の体育・保健体育の発展・充実に向けて、熱い研究会が開催されました。



【配信側 佐藤豊先生】

## 1 情報提供「指導と評価の一体化のための学習評価」

日本女子体育大学の高橋修一教授から「学習評価」の考え方について紹介いただきました。特に「思考・判断・表現」の評価については、場面の設定や意図的な発問により児童生徒の思考を引き出すことが重要であることを確認することができました。

## 2 実践発表【中標津町立中標津東小学校主幹教諭 荒井 健】

【北見市立常呂中学校教諭 小野寺 理香】

荒井先生からは、「思考・判断・表現」の評価について、単元特性を生かした評価場面の設定等、自身の授業実践で工夫している点とともに疑問がある事項を発表いただきました。

小野寺先生からは、器械運動の領域でICTを活用した実践例や学習カードをスプレッドシートで管理・集計・フィードバックする評価の実践例を発表いただきました。

その後、お二人の発表を基に3～4人の小グループで意見交換を行い、それぞれの立場から疑問点等について活発な意見が出されました。全体での共有場面では、積極的に自身の疑問の解決につなげようとする参加者が見られ、本研究会ならではの質問しやすい雰囲気の良い感じました。

## 3 ワークショップ（カリキュラム・マネジメント）

桐蔭横浜大学の佐藤豊教授を講師に、指導事項の重点化を検討する「カリキュラム・マネジメント」ワークショップを行いました。

小人数のグループに分かれ、右図のワークシートを使用し、下部にある球技領域で指導する事項を学年や時期、指導しやすい型（種目）などを考慮しながら6つの単元に割り振りしました。

グループ内では代表者が画面共有を行い、シート内のデータを操作し、意見を言い合いながら作業を進めました。

その後ブレイクアウトルームを作り、ポスターセッション方式でグループの代表による作成の意図等の説明や協議を行うことを通して、参加者は3観点を関連付けた指導と評価の必要性等について理解を深めることができました。

中学校第1・2学年 球技 重点化検討シート

	第1学年										第2学年																													
	ゴール型					ネット型					ベースボール型					ゴール型					ネット型					ベースボール型														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
技能	[Yellow]										[Yellow]																													
思考表																																								
態度																																								
知識																																								
知・技	<ul style="list-style-type: none"> <li>①フリーのシュート</li> <li>②フリーの味方へのパス</li> <li>③得点しやすい味方へのパス</li> <li>④ボールキープ</li> <li>⑤ボールとゴールが見える位置</li> <li>⑥空いた場所へ動く</li> <li>⑦ボール保持者をマーク</li> </ul>																																							
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教材の味や出さず伝える</li> <li>②練習方法を選ぶ</li> <li>③安全上の知識点を当てはめる</li> <li>④よい取り組みを他者に伝える</li> <li>⑤出した活動の仕方を説明する</li> <li>⑥話し合いで仲間との関わり方を説明する</li> <li>⑦多様な仲間と楽しむ方法を説明する</li> </ul>																																							
主体的な態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①積極的に取り組む</li> <li>②フェアなプレーを守る</li> <li>③話し合いに参加する</li> <li>④多様な意見を認める</li> <li>⑤仲間を援助する</li> <li>⑥安全に留意する</li> </ul>																																							

## 4 まとめ

日本女子体育大学の高橋教授から、重点化して組み立てていくことにより、①育むことができる力をより一層考えることができる、②全ての単元で全ての指導を行わなくてもよいことが理解でき、評価も楽になる、ことをお話いただくとともに、この考え方をより多くの方々に広げていくことが大切であることを提言いただきました。

■ 講師の先生方や事務局の梶先生をはじめ、御参加いただいた皆様に感謝申し上げます。  
（文責：北海道教育庁高校総体推進課 内海）